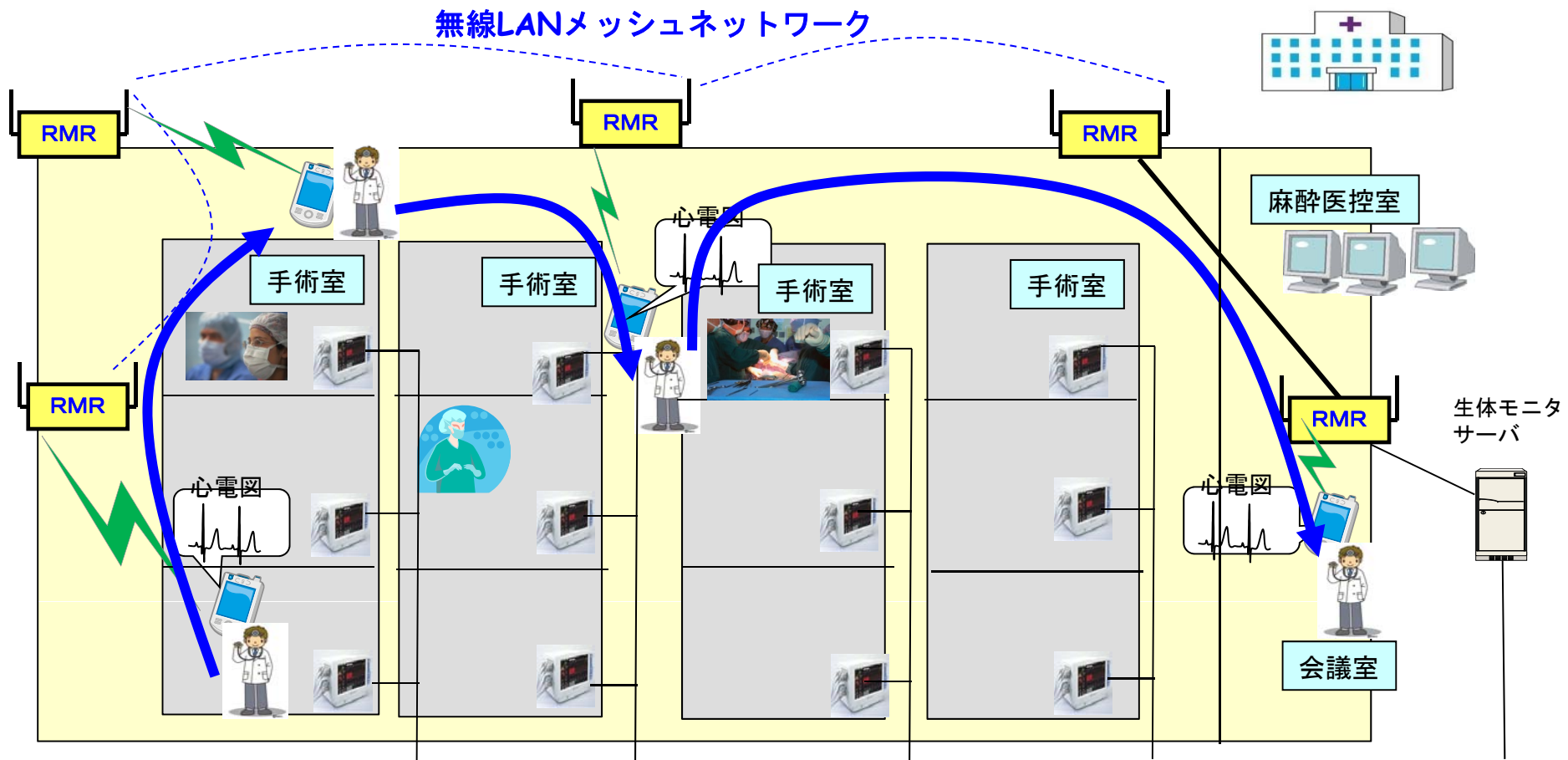


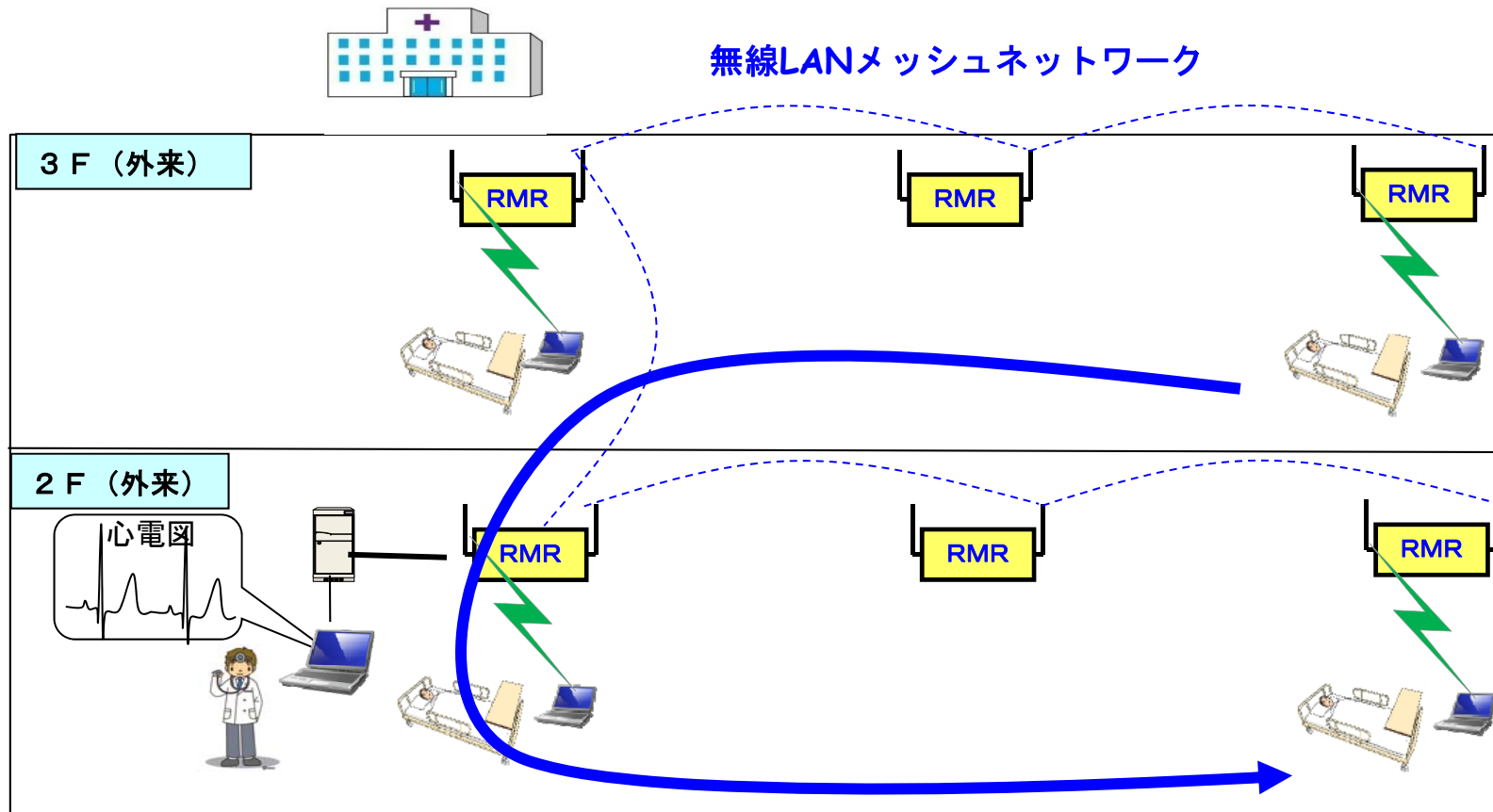
事例：手術室の生体センサー用無線ネットワーク（麻酔医先生向けの携帯端末）



（過去）手術室の生体モニターか、控室のモニターを見て、患者の生体センサー情報を把握するしかなかった。

（現在）麻酔医先生がどこにいても無線携帯端末により、患者の生体センサー情報（心電図、SPO₂、血圧など）をグラフで見ることができる。（RMRの「高速ローミング機能」を利用）

事例：病棟の生体センサーモニタリング用無線ネットワーク(実証実験)



重傷な入院患者に生体センサーを取り付けた状態で、診察のために、外来フロアを移動することがあるが、その際に、生体センサーのデータを継続して、リアルタイムにモニタリングすることが通常できない。今回の実証実験では、無線メッシュルーターRMRを2F、3Fに設置して、生体センサーのデータが、移動するベッドサイドからも、「**高速ローミング機能**」を利用して、継続して送信できることを検証した。